

第1回「二酸化炭素回収技術実用化研究開発事業」

研究開発プロジェクト 中間評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成29年10月4日(水) 14:30~17:00

2. 場 所 経済産業省別館2階227会議室

3. 出席者

(検討会委員) [敬称略・五十音順、※は座長]

梅田 健司 電気事業連合会 技術開発部長

金子 憲治 株式会社日経BP クリーンテック研究所 主任研究員

加納 博文 国立大学法人千葉大学 大学院理学研究科 理学部 教授

※川上 浩良 首都大学東京 都市環境学部 教授

芝尾 芳昭 イノベーションマネジメント株式会社 代表取締役

(研究開発実施者)

都筑 秀明 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE) 理事

中尾 真一 RITE 化学研究グループリーダー

杉田 啓介 RITE 化学研究グループ サブリーダー

余語 克則 RITE 化学研究グループ 副主席研究員

山田 秀尚 RITE 化学研究グループ 主任研究員

吉澤 克浩 川崎重工株式会社 主任研究員

甲斐 照彦 次世代型膜モジュール技術研究組合 (MGM) 技術部長

首藤 淳 MGM 大阪研究室室長

(事務局)

産業技術環境局環境政策課地球環境連携室

課長補佐 立松 博樹

係員 田中 美妃

調査員 菊地 正直

(評価推進課)

産業技術環境局技術評価室

室長補佐 齋藤 充

技術評価専門職員 江間 祥三

4. 配布資料

資料1 「二酸化炭素回収技術実用化研究開発事業」研究開発プロジェクト 中間評価検討会 委員名簿

資料2 研究開発評価に係る委員会等の公開について

資料3 経済産業省における研究開発評価について

資料4 評価方法(案)

資料5-1 「二酸化炭素回収技術実用化研究事業(先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究事業)」研究開発プロジェクトの概要

資料5-2 「二酸化炭素回収技術実用化研究事業(二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発事業)」研究開発プロジェクトの概要

資料6-1 評価用資料「二酸化炭素回収技術実用化研究事業(先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究事業)」

資料6-2 評価用資料「二酸化炭素回収技術実用化研究事業(二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発事業)」

資料7 「二酸化炭素回収技術実用化研究事業」技術評価結果報告書の構成(案)

資料8-1 評価コメント票(先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究事業)

資料8-2 評価コメント票(二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発事業)
質問票

参考資料1 経済産業省技術評価指針

参考資料2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料3 平成26年度事前評価時 技術評価書

5. 議事概要

(1) 座長選出

委員の互選によって、川上委員が本検討会の座長に選出された。

(2) 評価検討会の公開について

事務局から、資料2により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配付資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

(3) 評価の方法等について

事務局から、資料3、4、7、8-1、8-2により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

(4) 研究開発プロジェクトの概要について

事務局及び実施者から、資料5-1、5-2、6-1、6-2により、「二酸化炭素回収技術実用化研究事業」研究開発プロジェクトの概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

①先進的二酸化炭素固体吸収材実用化研究事業)

- ・ 固体吸収材の検討は終了したのかと委員から質問があり、研究開発実施者からコスト削減に向け引き続き取り組んでいくとの回答があった。
- ・ スケールアップの規模の妥当性について委員から質問があり、研究開発実施者から一般的に妥当な規模であるとの回答があった。

②二酸化炭素分離膜モジュール実用化研究開発事業

- ・ 性能向上に向けどのような取組をしたのかと委員から質問があり、研究開発実施者から材料のスクリーニングや組み合わせ、成膜方法の検討等を行ってきたとの回答があった。

(5) 今後の予定について

評価コメント票の提出期限を平成29年10月18日とすることを確認した。また、第2回評価検討会を平成29年11月29日14時30分から開催することとした。